

おちゃわん通信

第 29 号 20191105

“食器リサイクル”は日本語!!

食器リサイクル全国ネットワーク

代表 江尻京子

27号にも書きましたが、会員みなさんの活動が、回収してリサイクルするというだけではなく、リサイクルからリユースへ、あるいは、リメイクへと取組に変化が出てきました。また、スタートした時期とは異なることが課題になったり、悩みごとが増えたりもしています。地域や活動主体、連携の団体・人にはそれぞれ差があり、事例を共有化するだけでは解決していかないこと、前進しないことも多くなってきています。

10月末、数人が集まり、今後の全国ネットについて意見交換しました。回収してリサイクルするだけではない全国ネットの活動実態にあわせて、団体名の変更、回収・リサイクル活動とその他の活動の分離、産地と消費地の連携や交流など私は代表という立場で問題提起をしました。

参加のみなさんはそれぞれの活動に基点を置きながら、団体の名前を変える必要はなく、ずっとこのまま活動を続けたい。「リサイクル」ということは日本に定着しているし、「食器リサイクル」という名前でも活動は様々でいいのでは。Re 食器は食器リサイクルの産物。3R や表現にこだわるのではなく、だれもがイメージすることのできる「リサイクル」という言葉を使い続けながら問題を乗り越えていけばいい。「リサイクル」ではなく「食器リサイクル」。これは日本語なんだ!!としみじみ思いました。

私は、一人の市民として、消費者として、一個人として全国ネットを通して出あった皆さんとはずっとつながっていたいと思っています。「食器」を気にかけている人たちがいい人ばかりだからなのでしょう。それは、乱暴に扱おうと割れてしまうという宿命を持った食器に思いを寄せているということがその「いい人」を作っている要因なのかもしれません。

「食器リサイクル」は日本語なのか。この続きは全会員みなさんのご意見をうかがった後にあらためてお知らせします。



おちゃわん通信第29号掲載記事一覧

- 食器回収の「なぜ？」にお答えします
- お茶わんチーム
- 西東京市の「おちゃわんリサイクル」の報告
- 食器リサイクル全国ネットワーク会員募集